プロジェクトニュース

シエラレオネ　地域開発能力向上（CDCD）プロジェクト

「本邦研修その３～健康でいられる理由～」号

2017 年 1 月 27 日号 (Vol.39)

研修は後半に入り、東松島市から戻った研修員は、仙台市を訪問しました。仙台市では、保健行政、行政と学校教育の連携、地域保健・医療システム等について講義や視察を行いました。

1 日目は、仙台市の保健行政について、講義と保健所の視察を交えて説明を頂き、行政が市民にどのような保健サービスを提供しているのかを学びました。講義の中で、特に研修員の関心が高かったのは、妊産婦と生まれてから 6 歳までの子どもに対する様々な支援についてでした。講義後は、保健所を訪問し、市民への保健サービス提供の場を見学しました。研修員も子どもを持つ親として、日本の行政による手厚い母子への支援にすばらしいとの声が聞かれました。一方で、母子に対する手厚い支援があるにも関わらず、少子化が問題となっている日本の現状は非常に残念だと話す研修員もいました。

仙台市は感染症対策として、〝仙台方式〟と呼ばれる感染症を制御するため研究機関や医療機関と連携した体制を構築しています。新型インフルエンザが流行した際は、この体制により感染の拡大を最小限に抑えた実績があります。講義では、仙台市の感染症予防の具体的な取り組みを説明していただきました。エボラ出血熱の流行を経験した研修員は、感染症予防に対する取り組みの重要性を強く認識しており、研修員から、仙台市の事例はシエラレオネで感染症対策を実践する上で、参考になることが多々あったというコメントもありました。

講義の様子（健康安全課）

保健所視察

2 日目は研修員一同が、訪問を楽しみにしていた仙台市立高砂小学校で、行政と学校教育の連携した取り組みとして保健室や調理室の見学、教室で児童が給食を配膳する様子を見学させていただきました。給食を調理する調理室は、衛生環境が整っており、研修員はその設備に驚くとともに、衛生面に配慮する姿勢を見習いたいと話していました。その後、市役所職員の方々から、養護教諭の職務と保健室の役割や学校給食についての説明を頂きました。日本の給食システムに対する研修員の関心は高く、給食費を誰が、どのように金額を設定するのか等の質問がありました。生徒 1 人の給食費は安く、限られた予算でやりくりし、栄養バランスのとれた給食を提供するシステムに感心していました。できあがった給食を試食させていただいた研修員から、栄養バランスが良い給食については、美味しい、素晴らしいとの声の他、学校給食は、全ての児童が同じものが提供され平等で、とても良い制度だというコメントがありました。

最後に訪問した健康増進センターでは、80 歳以上の方を対象とした運動教室を体験しました。80 歳を超えても元気な参加者から「まだまだ若いね」といわれた研修員一同は、はりきって身体を動かしていました。日頃から運動を続けることで、80 歳でも元気でいられる姿を見た研修員一同、驚きとともに、自分たちも歳をとっても元気でいたいという気持ちになったようで、健康を維持するために自分の食生活をどう改善すべきか、センター職員の方にアドバイスを求めていました。仙台市の健康増進のための取り組みが、市民の健康維持に役立っていることを実感し、行政の取り組みの成果を参加者の姿から実感することができたようです。

給食を試食

運動教室を体験

研修最終日。この日は研修を通して学んだことと、シエラレオネに帰国後に研修で得た学びを実践するために研修員が作成したアクションプラン（活動計画）を発表しました。アクションプラン発表会には、初日に講義を頂いた、小池教授にも出席していただきました。研修員一同、小池教授にアクションプランを発表するのを楽しみに、タイトなスケジュールの中、各々のアクションプランを完成させました。研修員の発表を聞いた小池教授からは、1 人 1 人に対し労いの言葉とともに、アクションプランを実践するためのコメントやアドバイスを頂きました。

研修を無事終えた研修員は、作成したアクションプランの実践を約束し、帰国の途につきました。これから彼らのアクションプランが何らかの形で実践されることを期待したいと思います。

アクションプラン発表会の様子

研修終了時の集合写真